

平成29年度 第3回理事会 議事録

平成29年12月9日(土)～10日(日)

香川県高松市 高松競輪場会議室

○出席者

藤田 部長、早川 副部長、中梶 理事長、中田 副理事長、河田 常任理事、高畑 常任理事、大野 常任理事、小柳 常任理事、月成 常任理事、中野目 常任理事、平葎 理事、山本 理事、堤谷 理事、塚崎 理事、田中 理事、阿部 事務局長

理事出席が2/3以上により会成立定数を満たし、理事会が成立

○藤田部長挨拶

昨日の総務部会、競技運営部会、先週の強化育成部会とさまざまな会議を行っていただきありがとうございます。懸案事項の調整ありがとうございます。

○会議に先立ち 熊本市様より選抜大会状況報告

平成26年度から熊本市、山鹿市でのスポーツ発展にご協力頂きまして感謝申し上げます。また、一昨年の熊本地震で被害を受けたがさまざまな支援をいただきありがとうございます。

熊本競輪場はバンク破損、スタンド損傷で被災している状況で、久留米市様のご協力で平成28年度、平成29年度選抜大会を実施させていただいております。久留米市様に感謝申し上げます。

平成28年度選抜での地元選手が活躍して大きな地元への力となっている。

しかしながら、平成30年度までの開催請け負っているが、復興へ事業への集中をはかり一日でも早い全体の復興のために、平成30年度は選抜大会開催を返上させていただきたい。

→ 熊本市様の申し出を承認。

以下、規約26条3項により部長が進行を行う。

1. 協議事項

(1) 平成29年度選抜大会要項および運営について

○選抜実行委員会より

- ・会場について

開会式会場の説明。地元の学校様にご協力をいただいている。

○総務部会長より

- ・女子のロードのみ出場選手について

該年度の実績を示す全国大会のリザルトを提出。専門委員長推薦が必要。

- ・申し込みについて

デジタルデータでのみ受付をする。公印を押したものをPDF化する。

原本は大会会場での受付時に提出。振込時に短縮名称学校名を入れる。

- ・ID

正選手人数分+監督・引率責任者・チームサポートに最大2枚

- ・宿泊

祝日が入る関係で宿の確保の必要性から指定配宿を20日(火)とする

- ・ロードスタート方法

小周回コースは採用しない。ロード参加選手を削減し安全面を確保。

スタート位置について第111回委員長会議選抽選結果により位置決め。

都道府県内でのシード選手制採用。

シード選手、開催権選手、都道府県選出シード選手、その他都道府県選手の並び

○競技運営部会長より

- ・コミッセルパネル

チーフコミッセル：馬場先生(長崎県)

- ・特別規則

「ケイリン」

ペーサー離脱位置は残り2周回フィニッシュライン

ペーサー離脱後は競技規則66条10を適用

「1kmTT」

1ラウンド制

☆ケイリンについての意見

400mバンクなのでペーサー離脱を1周半ではいかがか? 250mバンクをベースとしているルールなので400バンクでは運用が厳しい状況である。

→ 1周半では特別規則というよりルール改編となりえる。

→ 原案で承認

(2) 平成30年度インターハイについて

○開催地より

・期日

開会式8月3日 16時から17時 ベロドローム

競技4日から7日

閉会式8月7日 13時から14時

・競技方法

男子は学校対抗 女子は個人戦

・引率

男女の引率責任者、監督、サポートは兼務できる。

・選考資格

女子はブロック大会結果をもとに全国専門部より選出された者に限る。

・参加人数制限

男子450名以内

前年度二次登録加盟校数に基づき算出した参加人数を各ブロックに配分する。

女子50名

当該年度のブロック大会のエントリー数にもとづき算出した参加人数枠を各ブロック（定数1＋比例配分）に配分し、女子選手選考要領により選出する。

女子1校参加選手4名以内、ロード3名以内

ブロック大会を経て選出された選手は出場希望種目を第1から4まで希望申請する。

500TT、2kmIPの申請タイム順、希望順で種目決定をする。

希望順位が高い種目を優先とする。

TT 12名

KE 12名

IP 10名

PR 16名

RR 50名

KEはTTタイム PRはIPタイムにより選考

欠員が出たブロックは補欠を起用する。欠員が生じた場合、各ブロックより提出された選考順位に基づき選考を行う。

- ・表彰
男子は8位まで表彰、女子は3位まで表彰
- ・一般駐車場
近隣小学校からバスによる運送（鳥取同様）

→ 承認

○競技運営部会長より

- ・タイム制限
H29年度TSP36チーム出場
H30年度インターハイTSP基準タイムを1分22秒190とする
- ・手計時補正
主要全国大会手掲示補正タイム3年分データより+0.3000であった。
手計時補正+0.300秒を継続する。

→ 承認

(3) 2019年度インターハイ

○理事長より

- ・女子競技
急遽の代替え開催となったが、尽力いただき女子正式競技を継続
- ・ロード・レースコース
ツールド沖縄のコースではなく、名護方面の方向性

→ 承認

(4) 2020年度インターハイ

○理事長より

- ・他競技動向
13競技開催地未決定
- ・会期
8月10日から24日で行う方向、4日間で開催
- ・開催地
開催希望都道府県がある。12月中に返答をいただき今年度中に決定予定

→ 承認

(5) H30年度選抜について

○副理事長より

H30年度熊本市辞退。様々な方向性を模索中。

H29年度選抜大会までに決定していきたい。

→ 承認

(6) 2019年度から2021年度選抜

○理事長より

現在のところ公募応募なし。

前向きに検討している自治体はある。

→ 承認

(7) 2018年度日韓高等学校戦について

○理事長より

・2017パシフィックリム不参加について

2017パシフィックリムより韓国撤退。中国が主幹となったが
大会一か月前に要項でない状況。それにより不参加。

・今後の方針

国際交流競技力向上のために対抗戦を行っていきたい。

2018年11月3日4日に韓国と高校生戦を行う方向。

高体連事業として行う方向（JKA補助金）

名称は検討

→承認

(8) 各専門部会より

○総務部会より

・登録締め切りについて

H30年度二次登録の締め切りを9月20日頃にしてはどうか

それにより、10月上旬に選抜枠を発表できる。

・安全対策

350件前後の事故報告（スポーツ振興センターの申請件数）

事故防止ガイドラインを制作すべき。ガイドライン概要案の骨子について作成する。

→ 承認

○競技運営部会より

- ・トラックレース高体連新記録設立

データを収集し2月の理事会、専門委員長会で報告。

競技運営部会で大筋をつくり広報部会で管理をしていく方向性。

- ・機材規制検討委員会の設立

7年間のアンケートにより規制が必要であるという意見が60%

この問題について検討する委員会を設立したい。

2月に検討委員会設置、理事会以外からも都道府県専門委員長などから構成したい

☆意見

各ブロックより最低1名はメンバーと選出した方がよい。

→ 意見を踏まえながら理事長がメンバー選定する。

- ・専門部ツイッター

ホームページ更新情報、速報性の高い情報を発信する

あくまでも、正式情報はホームページリリースによる

3月末まで試行する。

→ 承認

○強化育成部会

- ・全国合宿、女子合宿

宿等の手配済。関係各所に連絡済。

- ・JCホープフルクリテリウムの選考について

選考方法をブロックにお願いしてはどうか。

観衆5万人の中で走れる貴重な機会。

☆意見

希望者を募り、その中から選考してはどうか。

クリテリウム or オープンロードどちらかしか出場できないタイムスケジュールが厳しい

現状、一人3万円では九州ブロックなどからは参加が難しい。

学校単位ではなく個人参加にしてはどうか。

→ インターハイで出場希望を募って、希望者上位から24名を選考、事務局で集約する

→ 承認

(9) その他

○総務部会長、事務局長より

- ・ジャージデザインと登録について
検討を進める。
- ・高体連登録抹消書類について
様式を規定する。

→ 承認

2. 報告事項

(1) H29年度福島インターハイ

○担当理事より

- ・日本記録について
日本記録2つ。公認された。

○理事長より

日本記録が出た場合、ドーピング検査を行った場合のみ認められる。
高体連としてはドーピング検査を義務付けない。
日本記録の申請を望む場合、ドーピング検査をおこなう。(任意)

(2) パシフィックリムについて

不参加

(3) 協賛企業について

(4) 全国高体連、JCF関係

体罰防止

(5) 各専門部より

○総務部会より

- ・加盟徴収金検討について経過報告

○競技運営部会より

- ・選抜番組編成方針について
- ・フィールド安全確保について
- ・落車についての再乗車について
- ・ロードの安全走行について

○強化育成部会

- ・全国合宿の選考について
- ・全国合宿スタッフについて
- ・2018日韓高校生戦選考について

(6) 賛助会員の状況について

○事務局長より

43都道府県専門部よりご協力いただいている

数多くの個人よりご協力をいただいている

選抜大会プログラムへ匿名の申し出以外、芳名を掲載させていただく

(7) その他

○理事長、事務局長より

- ・専門部自己資金確保の必要性について

今後、JCF補助金は清算払いとなっていく

インターハイ開催地行政負担軽減について